

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901734	事業の開始年月日	平成15年4月1日
		指定年月日	平成15年4月1日
法人名	社会福祉法人 宗得会		
事業所名	グループホームつばき(ユニットさざんか)		
所在地	(〒238-0311) 神奈川県横須賀市太田和2-10-3		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和7年2月14日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個人のその人らしさを大切に家族や地域と共に歩む家(ホーム)を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月14日	評価機関 評価決定日	令和7年5月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 当業所は、JR横須賀線衣笠駅から徒歩7分程の「衣笠十字路バス停」からバスに 乗車し「太和田」バス停下車、もしくは京浜急行三崎口駅からバスに乗車して 「林」バス停で下車、両バス停から徒歩5分の場所に立地する。軽鉄骨造平屋建 て、2ユニットのグループホームである。各ユニットは玄関を中心に左右に配置さ れている。事業所に隣接して、同法人の特別養護老人ホームやデイサービスセン ター、居宅介護支援センターがある。 【同法人の他サービス事業所との連携】 事業所に隣接して法人の特別養護老人ホームがあり、災害時の協力体制が構築さ れている。また近隣の住民と炊き出し訓練を行なっている。法人内の各事業所の職 員がメンバーとなり委員会を設置して、意見交換を行なっている。利用者の希望で 事業所から同法人の特別養護老人ホームに移る方がいる。 【地域と事業所とのつながりの継続】 開設当初より生花店に依頼し、利用者の誕生日に花が届くようにしている。また 敬老の日や正月などの行事の際にも花が届くようにしている。 地域の町内会長や民生委員とも良好な関係を築いており、地域のお祭りに招待され ている。またお正月には、獅子舞いが訪れ、健康祈願をしてくれる。 【専門学校実習生の受け入れ】 毎年2回、前期と後期に分けて、福祉専門学校の実習生を受け入れており、職員 の意識の向上に繋がっている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットさざんか

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員に目標と、その目標を達成する為に何をするのかを提示してもらい、理念を共有し実践につながる様努力している	運営理念の「一人ひとりの思いに寄り添い、人として尊重し笑顔溢れ楽しく過ごしていただける『心温まる家（ホーム）』を目指します」を各ユニットの入口、リビングや更衣室に掲示し、共有している。運営理念は、現管理者が着任時（2年前）に職員の意見も取り入れ新たに作成した。毎年3月に見直しをしている。理念に沿った事業所の運営方針をケアの実践に取り入れている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの影響により関わりはなかったが、防災訓練の一環として炊き出しを地域の方で行った	太田和町内会に加入しており、回覧板で行事等の情報を得ている。法人の施設で地域の方と炊き出し訓練を行なった。福祉専門学校の実習生を年2回受け入れている。近隣の方とは散歩や日光浴時に挨拶をしている。コロナ前は幼稚園児との交流や中学生の体験学習の受け入れを行っていたが現在は中断している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルスの影響によりつながりはなかったが、認知症の方に対する実践例などを終息後には伝えていきたい			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度民生委員、地域包括職員、地域代表、ご家族により意見や情報交換を行っている	運営推進委員会のメンバーは民生委員、地域の代表、地域包括支援センター職員、家族代表、管理者である。事業所から現状報告、行事報告を行ない、民生委員からは地域の活動報告がある。民生委員の「防災訓練に地域の方にもお声掛けし参加して貰い地域の協力を得てはどうか」という意見を受け、3月末に行なう防災訓練に近隣住民に声掛けする予定がある。	運営推進委員会のメンバーに家族代表1名のみ参加になっているため、家族全員にお声かけして、議事録も全員に送り、事業所の運営を知って貰う機会にされる事を期待致します。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時や相談等、担当者への連絡でアドバイスを受けサービスの向上に努めている	横須賀市民生局福祉こども部指導監査課に運営推進会議の議事録を郵送し、介護保険課には事故報告書を郵送している。介護保険要介護認定更新時は家族に代わり申請を行なっている。行政からは研修の案内がFAXで届いているが、内部研修を実施していることもあり、参加はしていない。グループホーム連絡会に加入しており、ビデオ会議で意見交換を行なっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通し研修を行い理解を深めている	身体拘束適正化委員会指針ならびにマニュアルを整備している。法人内の各事業所の職員をメンバーとした身体拘束適正化委員会を年2回法人本部で開催している。議事録を各ユニットに配布し全職員が確認している。不意の外出があった時や転倒リスクのある利用者の行動にも、気持ちを汲み取り付き添っている。ベッドにセンサーが付いており起き上がり時や立ち上がりの見守りの一助となっている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を通し研修を行い理解を深めている	虐待防止委員会の指針、マニュアルを整備している。委員会は身体拘束委員会と一体的に年に2回開催している。議事録を各ユニットに配布し全職員が確認している。全職員が法人によるストレスチェックを実施し、振り返りを行なっている。不適切なケアや言動があった時には管理者が個別に話して面談も行なっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会を通して各職員が理解を深められるように努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更がある際には不明点を確認しながら説明を行っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会や来所された際には要望や意見を聞き、可能な限り実践できるように努めている	家族から利用者の様子を尋ねる電話があった際や面会の際に意見を聞いている。年2回発行の「椿だより」に、利用者の様子を記した手紙と写真を同封して郵送している。家族からは好評を得ており、写真を飾っている家族もいる。ブログで事業所内の出来事を発信しており、「近況がわかりうれしい」との声が届いている。「手先が器用なので刺しゅうなど取り入れて欲しい」と家族から要望があり、刺しゅうを行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員の意見を汲み取りユニット会議時に共有、改善、実践が出来る様に務めている	毎月1回両ユニットの常勤職員でミーティングを実施し、開催前には各職員から意見を聞いている。ユニット会議は必要時に行なっている。議事録を作成して共有している。管理者は職員が気兼ねなく相談や話ができる雰囲気作りに努めている。「立ち上がる利用者が多く他の利用者に手が届かない」という意見が出た時は、利用者の気持ちに注力し職員の介護力をつけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の評価や職場環境、条件の整備に努めている	健康診断は年1回（夜勤者は2回）行なっている。年1回、人事考課を兼ねた面談を行っている。介護福祉士資格習得、リーダー研修受講の際は出勤扱いとし、交通費を支給している。職員が、毎月有給休暇を取得できるよう配慮している。現在、育児休暇を取得している職員がいる。介護休暇制度もある。パート職員に対する人事考課はないが、管理者は常に面談を行なっている。休憩室にはベッドが置かれており、ゆっくり休憩が出来る。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に参加し、職員の資質の向上に努めている	法人の年間研修計画書に基づき、全職員参加を基本とし、月1回研修を行なっている。感染症や事故発生防止、緊急時の対応など多岐にわたる内容の研修を実施しスキルアップにつなげている。参加出来なかった職員は回覧された研修議事録を確認することで内容を把握している。事業所では、新入職者に対し、OJTノートを作成し、マニュアルに沿って新人研修を行なっている。入職後、1ヶ月、3ヶ月が経過したタイミングで管理者が面談を行なっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	リモートを通じて他グループホームとの相談会へ参加し同業者との交流を深めた		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に困りごとや心配ごとを聞き、その内容を職員と共有した		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の困りごとや入居後の不安を聞き取り、職員と共有することで不安がないように務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅や入所されている施設へ訪問し、生活環境などから必要としている支援をご家族と相談し対応に努めた		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であること、個々の生活ペースを崩さないように職員間で考え支援に務めた		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や来所時に日頃の様子を伝えたり、行事の写真を郵送している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と自宅へ行き、馴染みの方と会われたり交流を深めている	入居時のアセスメントから馴染みの人や場所の情報を把握している。また本人や家族等からも聞き取っている。近隣の友人が訪ねて来たり、家族が利用者の好みの食べ物や飲み物を持参している。年賀状の投函や電話の取次ぎを支援している。家族と毎月お墓参りに行く利用者がいる。外気浴の際、馴染みの利用者同士でおしゃべりを楽しんでいる。従前の趣味である三味線を弾く方や刺しゅうをする方がいる。ハーモニカを吹く利用者に合わせて、皆で歌を唄っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話を見守りながらも職員が間に入ることで支え合えるような支援に務めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内で他部署へ移られたご利用者のご家族へ経過を伺うとともに相談に乗れるよう努めた		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居するまでの経緯や生活歴を把握できるように、ご家族から意向を含めて伺っている	入居前に自宅や施設に出向き、本人、家族から意向を聞いている。以前の介護支援専門員からも情報を得ている。聞き取った内容は申し送りノートに記載して把握し、ケアプランに反映させている。思いや意向の把握が困難な場合は家族や入居前の施設に連絡をして、ご本人の暮らしぶりや好みを聞き取っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活スタイルをご家族から聞き、できる限りそのスタイルを崩さないように共有して支援を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活ペースを記録し、情報を共有している		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者を中心に、要望・課題等について検討し、介護計画と日々のモニタリングに努めている	介護計画作成は本人や家族の意向や課題を聞き作成している。生活をして行く中でコミュニケーションが図れるよう努め、体力が継続出来るように介護計画を作成している。看護師の意見も反映している。介護計画に沿って日々モニタリングを行ない、様子を介護記録に記載している。ケア記録は手書きで行っており、介護計画の内容と記録は連動している。長期は1年、短期は6ヶ月で見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録や職員間での意見交換を通して、見直しや支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルスの影響により困難だった		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や市町村との関りの中で地域資源を把握して提供に努めている		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族が望む対応へ、往診医の紹介や受診時のサポートに努めている	利用者2名は入居前からの内科往診医の訪問診療を受診している。うち、1名は家族対応にて受診している。他の利用者は法人の協力医の訪問診療を月1回受診している。協力医の訪問時には看護師も同行している。協力医療機関には内科・皮膚科・整形外科など多数の科があり24時間対応可能となっている。法人の看護師が週1回来所し、健康観察をしている。訪問診療の1週間前に、医師宛てた利用者の状況をFAXで送信している。受診結果を医療連絡ノートに記載して共有している。歯科医は週1回、個別契約をした利用者の元を訪れ診療を行なっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調確認に努め、変化時は法人内の看護師に報告・相談し適切な処置や受診が出来るように努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、入院中もこまめに連絡を取り、状態把握等の情報交換に努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応の指針説明や同意・終末期における意向確認を適宜行い、必要時にはカンファレンスを行い、本人やご家族の要望に沿った対応に努めている	入居時に「看取りに関する指針」「急変時と終末期における医療等の意向確認書」を説明をし本人、家族の意向を確認している。終末期は「看取り介護についての同意書」を事業所から説明し、医師から「看取り介護に関する意見書」の説明をしている。年1回ターミナルケアの研修を行なっている。今年度の看取り実績はないが、家族の希望により、法人内の特別養護老人ホームに入所した利用者や病院に移った利用者がいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的に職員へ確認を行っている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練実施や機器の説明を行っている。地域との協力体制へ向けて取り組んでいる	年3回の防災訓練を行なっている。今年度は日中火災想定、津波想定避難訓練を行なった。利用者も一緒に玄関前に避難し消火器訓練に参加している。3月末には夜間想定避難訓練を行ない、近隣住民にも声掛けをする予定がある。近隣にある法人施設とは災害時の協力体制が構築されている。備蓄は職員を含めて3日分備えてある。消費期限や在庫の数は法人が把握しており在庫表もある。法人は、近隣の方と一緒に炊き出し訓練を行なった。BCP（事業継続計画）は策定している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で学んだことを実践し、人格尊重し、プライバシーを損なわないように取り組んでいる	ユニットごとに接遇研修を行なっている。トイレ誘導はプライバシーに配慮し、廊下での歩行訓練の後などに小声で声を掛けている。利用者の呼称は名字に「さん」付けとしている。職員間で利用者の話をする場合は、部屋番号としている。記録を取る際は利用者の見えない場所で記載している。ブログに写真を掲載しているが、事前に「個人情報開示に関する意向書」で承諾を得ている。個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかるキャビネットで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを汲み取り、自己決定ができるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを崩さないようし希望を伺いながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣服を着用できるように支援をしたり、定期的なヘアカットも希望に沿って実施していった		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事ではいつもと違った食事を提供したり、食事の準備や後片づけも一緒に行っている	ご飯、味噌汁は職員が調理し、副食は業者から届く冷凍食材を使い、湯せんや電子レンジで温めて提供している。業者では特別食の提供があり、クリスマスにはピザを、お正月や敬老会には、お刺身を取っている。鶏肉の唐揚げやサラダをテイクアウトして楽しむこともある。利用者は食器洗いや食器ふき、盛り付け、リンゴの皮剥きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが整った食事を提供している。また、個々に合った形状で提供するように調整している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを実施しており、定期的に専門的なケアを実施していった		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来る限り紙パンツやパッドを使わないように取り組んだ	「排泄チェック表」があり、パターンに合わせて日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠優先のほか、各々に合わせて誘導している。ベッドセンサーの使用により、早めの誘導が出来ている。布パンツを使用している利用者が3名いる。夜間も自立でトイレに行っている利用者もいる。骨折の為、入院していた方が退院後に支援を続けた結果、オムツから紙パンツ使用に、その後は布パンツ使用に改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や、必要な方には乳製品の提供を行った		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状態に合わせ入浴方法を検討した。安全確保やプライバシーを重視し、マンツーマンにて対応している	浴室と脱衣所に暖房がありヒートショック対策を講じている。事業所にはリフト浴があり、体が不自由な方も浴槽に浸かることができる。原則、週2回午前中に入浴をしているが、希望により週3回入浴をしている利用者がいる。同性介助の希望にも対応している。入浴を好まない利用者には、日にちや時間、職員を変えて声掛けをしている。専用のシャンプーを使用している利用者がいる。湯舟にゆず、菖蒲を入れて季節を楽しんでいる。入浴剤を入れることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のペースを尊重し休息をしており、換気や空調の調整や照明の調節を行った		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の状態を観察し、気になることは医師・看護師へ随時相談をした		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や刺し子など生活歴から本人の得意とするものを考え提供している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外出、外食を楽しまれたり、近所への散歩や個別のドライブを行った	天気の良い日は、車いすを使用している利用者も含め、事業所前の駐車場や近隣にある川に出かけている。庭に植えてある花や、自宅から持ち込んだ鉢植えの蘭に、毎日お水をあげている利用者がいる。法人の車を借用して紅葉狩りやさくらの花見に出かけている。家族と一緒に墓参りや買い物に出掛ける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での金銭管理は行っていない。希望品は家族や職員が随時購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には電話をしたり近況を手紙で報告している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や整理を実施すると同時に季節感を感じられるような装飾をし、時にはその装飾を職員と共に制作している	共有空間は窓が大きく天井も高いため、陽ざしが入り明るい。リビングや廊下も広く車いすの動線が確保されている。陽ざしが強いはカーテン、ブラインドで調整している。エアコン、空気清浄機や加湿器で温・湿度調節を行なっている。リビングには、利用者と職員と一緒に作った季節の作品を飾っている。リビングの清掃は職員が行なっている。トイレと廊下の清掃は福祉雇用の方が行なっている。利用者はほうきを使って掃除の手伝いをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内の席を調整したり、交流がもてるようにレクリエーションを実施している		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のあるものや、家族の写真を居室に飾ってある	居室では、テレビを見たり、ラジオを聴いたり、CDで歌を聞いたりして思い思いに過ごしている。自宅からはテーブルやいす、テレビ、タンス、ぬいぐるみ、仏壇、三味線、ハーモニカなど使い慣れた物や思入れのある物を持参している。照明、エアコン、洗面台、クローゼットが備え付けてある。衣類の入れ替えは家族や職員で行っている。居室の清掃は職員が行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活スペースに危険がないよう、定期的に環境整備を実施している		

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットつばき

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が事業所理念を共有し、常に意識し、日々ケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で関わりはなかったが、法人として震災時に支援活動など、地域との協力へ取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で関わりはなかったが認知症の方に対する実践例など、終息後には伝えていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、民生委員・包括・地域代表・ご家族と共に情報交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点がある際は、市町村の担当者に連絡し、アドバイスをいただく等サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、マニュアル作成や研修を行い、委員を通じて職員全体の理解を深めるよう努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、マニュアル作成や研修を行い、常に注意を払い、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会にて各職員が権利擁護についての理解を深められるよう、研修資料を作成し、研修を実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時等、都度不明点を確認しながら説明に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族からの要望がある際は、可能な限り実践できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議時に職員からの意見を汲み取り、共に実践できるよう努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の評価や職場環境、条件の整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に参加し職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	リモートを通して他グループホームとの相談会へ参加し同業者との交流を深めた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や、関係者と情報交換を図り、信頼関係の構築と不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な説明を行うとともに、不安点や要望等を確認し、安心できる関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を確認しながら、適切なアドバイスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活のペースに合わせ、本人のペースで家事やその他の活動を一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響で困難な時もあるが、本人の様子を伝えとともに、必要時のサポートを依頼する等、共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の友人が面会に来られたり散歩中に友人に会われた際には立ち話をするなど交流を深めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見極め、良好な関係を保てるような生活環境づくりや支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後も必要時は相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向の把握に努め、困難時は本人本位又は家族の意向を確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時や入居後も情報収集に努め、全職員が共通の認識を持てるよう、書面にて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースを記録し、職員間で情報を共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一斉に集めっての話し合いは困難であったが、管理者を中心に、要望・課題・支援等について検討し、介護計画と日々のモニタリングに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録や職員間での意見交換を通して、介護計画の見直し、支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の影響で困難であった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や市町村との関わりの中で地域資源を把握し、提供に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が望む対応へ、往診医の紹介や受診時のサポートに努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調確認に努め、変化時は法人内の看護師に報告、相談し、適切な処置や受診等が早期に対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、入院中もこまめに連絡を取り、利用者の状態の把握や情報交換に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応の指針説明や同意、終末期における意向の確認を適宜行い、必要時はカンファレンスや本人、家族の要望に沿った対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、定期的に職員へ対応方法の確認を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や機器の説明を行っている。また、地域との協力体制に向けて取り組んでいる。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、個々に合わせた声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや行動を汲み取り、自己決定の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースに合わせた支援を心がけ、その人らしい暮らしが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせた衣類の購入や整容の支援を行い、定期的な出張ヘアカットサービスも取り入れている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食の提供やおやつ作りを共にに行い、準備・片付けもできる範囲で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食事形態での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に行っており、個々の状態に合わせて、必要時には口腔スポンジや口腔シートを用いて実践している。歯科による往診も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の確認により、個々の状態に合わせた排泄支援を行っている。日中は可能な限りトイレでの排泄に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせ、乳製品の提供や個別の体操を取り入れ、スムーズな排便が行えるよう努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	マンツーマン対応を基本として、希望を確認の上、個々の状態に合わせた入浴方法にて支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせた休息をとられており、換気や温度・湿度調整、照明の明るさの調整も注意して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬目的、用法、用量、副作用について、全職員が理解・確認行えるよう、内容を常に共有し、服薬の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた活動の支援や、提供を行っている。また、毎月季節に合わせた行事を開催している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外出した際には、本人の希望にてお墓参りや花見など楽しまれている。また近所へ散歩やドライブの支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個々での金銭管理は行っていないが、希望時には家族や職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話や手紙をかけるよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や整理整頓等の環境整備を心がけ、季節に合わせた飾り物を装飾をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性に合わせた座席に配慮している。共有スペースにはソファを設置し、くつろげる空間づくりをしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物や本人の好む物、配置にすることで、本人が安心して過ごせるよう努めていく。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や各場所に表札を設置している。定期的な安全チェックを実施しており、環境整備を心がけている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームつばき

作成日 令和7年5月16日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	運営推進会議のメンバーであるご家族は1名の方が長年引き続き受けて下さっていたため、他の家族へは声掛けをしていない。	入居者されていること全ご家族が参加していただけるよう声掛けをしていく。	多くのご家族に参加していただくことでご家族皆様の意見を反映させることができる。	令和7年6月1日～令和8年3月31日（10ヶ月）
2	10	職員の外部研修への参加ができていない。	職員一人ひとりのスキルアップを図るため外部研修への参加を行う。	職員一人ひとりに見合った研修を探し参加できる職員体制をしっかりと整えていく。	令和7年6月1日～令和8年3月31日（10ヶ月）
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。